

質問に対する回答について  
 工事名) 秋田自動車道 山内トンネル工事

質問事項と回答

番号	質問事項	回 答
1	<p>開示資料の施工計画書P3-16の避難連絡坑のサイクルタイム表にて、C2-K-S-2とC2-K-S-3の掘削断面積が加背割図の掘削数量+既設コンクリート取り壊し量となっていると思われませんが、C2-K-S-2は、既設の床版コンクリートの量が、計上されていないと思われます。C2-K-S-2の断面数量は、10.0, 11.5 ではなく10.6と12.1ではないでしょうか。</p>	<p>入札公告（説明書）6-12（1）⑥その他に示すとおり、閲覧資料の内容に関する質問にはお答えできません。</p>
2	<p>特記仕様書 P43 の表で、調査ボーリング工の範囲は「山内トンネル STA.81+27.0～STA.104+95.0」と対象範囲が、2,368m となっておりますが、調査ボーリング 1600m の施工対象範囲をお示し願います。            （開示資料のトンネル数量計算書では、終点坑口（STA.105+65.0）から 100m を 16 回となっているが、それを正とすればよいのでしょうか）また、各ボーリングの軟岩、中硬岩の延長を明示願います。また、特記仕様書の表の摘要欄にボーリングの岩種は、軟岩と中硬岩となっておりますが、開示資料では、坑口部の土砂が含まれると思われますがどちらを正と考えればよろしいでしょうか。</p>	<p>トンネル終点側のSTA.104+95～STA.105+65までの70mについては、別業務にて調査済みとなっております。            そのため、本工事の調査ボーリングの施工対象範囲は、STA.92+15～STA.105+15の1,300mとなります。また、調査ボーリング工の土質区分ごとの延長について、特記仕様書の記載が不足しておりました。            上記については、交付図書を訂正致します。後日、訂正公告をご確認願います。（4月15日掲載予定）</p>
3	<p>特記仕様書 43～44 の調査ボーリングで、最初の 100m はすべてオールコア、二回目以降は 20m ノンコア +80m オールコアと考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>初回の調査ボーリング含めて20m ノンコア+80m オールコアとなります。            なお、オールコア及びノンコアの調査ボーリング延長について、交付図書を訂正致します。後日、訂正公告をご確認願います。（4月15日掲載予定）</p>

番号	質問事項	回 答
4	<p>金抜設計書 P16 で、調査ボーリングの詳細分析試験 A は 128 シリーズとなっておりますが、これは、80m/10m×16 回と考えてよろしいでしょうか。又最初の 1 回目は 100m である為 2 回増え、130 シリーズとなるのではないのでしょうか</p>	<p>調査ボーリング工 詳細分析試験Aにおける128シリーズの内訳は、調査ボーリング80m毎に1シリーズ/10mで計16回となります。</p>
5	<p>数量明細書ロックボルト C(L=4.0m)の 8,970 本には、避難連絡坑の施工を行う時の口付け部の補強ボルトが計上されていませんが、この補強ボルト、補強プレート等は、協議事項と考えてよろしいのでしょうか。</p>	<p>契約締結後の協議事項とお考えください。</p>
6	<p>トンネル数量計算書Ⅱ-4 で、非常駐車帯マル 4 とマル 5 の間の C2-B-i の覆工型枠の増減は、0.50m となっておりますが、<math>0.50\text{m} \times 2 = 1.00\text{m}</math> となるのではないのでしょうか。もしそうなら、C2 の増は、5.5m ではなく 6.0m となり、型わく T は、52,081.7m<sup>2</sup> となるのではないのでしょうか。</p>	<p>入札公告（説明書）6-12（1）⑥その他に示すとおり、閲覧資料の内容に関する質問にはお答えできません。交付図書の数量に基づきお考えください。</p>
7	<p>標準断面図(6)~(8) コンクリート C2-1（避難連絡坑の床版コンクリート）には、鉄網 D6×125×250 も計上されていると考えて良いですか。</p>	<p>鉄網に係る費用については、コンクリート C2-1 の単価項目に含んでおります。上記については、交付図書を訂正致します。後日、訂正公告をご確認願います。（4月15日掲載予定）</p>

番号	質問事項	回 答
8	<p>開示資料の施工仮設備計画 3-8 では、小口径長尺鋼管先受と長尺鋼管先受の注入材をシリカレジンとして上半掘削のサイクルタイムが計算されていますが、特記仕様書等では注入材がセメント系となっており、注入量や注入速度の違いから施工日数に差が出るものと思われま す。参考図の工程表では、D3a-A-2(H)-K の施工期間が 1.6 月と開示資料の施工期間と同じ月数となっていますが、図面の工程表は、注入材をセメント系として計算されていると考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>小口径長尺鋼管先受工及び長尺鋼管先受工について、注入材料は特記仕様書 27-25及び27-26に示すとおりです。入札公告（説明書）6-12（1）⑥その他に示すとおり、閲覧資料の内容に関する質問にはお答えできません。貴社の施工計画に基づきお考えください。</p>
9	<p>特記仕様書 P47 トンネル工における機械損料補正に用いる月平均標準運転日が 21 日とされておりますが、工程算出に当たっての月の稼働日数も 21 日と考えるとよろしいでしょうか。</p>	<p>貴社の施工計画に基づきお考えください。</p>
10	<p>上記の場合、参考図の工事工程表には「※工程表には調査ボーリング日数も含む」と記載されていますが、掘削月数の数値には調査ボーリングに要する日数がほとんど反映されていないように見受けられます。調査ボーリングの施工は土日を利用する計画でしょうか。</p>	<p>貴社の施工計画に基づきお考えください。</p>

番号	質問事項	回 答
1 1	<p>質問回答書 No.6・3 で冬期休止期間の仮置場は、設計図（1/6）本線の図面番号 1 位置図の「ずり仮置場・発生材置場」（以下 A）、及び設計図（6/6）参考図の図面番号 23 終点側仮設平面図の「仮置き場」（以下 B）となります、との回答を頂きましたが、冬期間のトンネルずりは切羽から B に運搬、仮置きし、A に 2 次運搬する計画でしょうか。あるいは B はインバート埋戻し分を仮置きし、その他のずりは切羽から A へ、公道を使用して直接運搬、仮置きする計画でしょうか。</p>	<p>貴社の施工計画に基づきお考えください。</p>